

学 位 論 文 要 旨

氏 名 福谷 泰斗

題 目 中学校社会科における自律的な学習者の育成に関する実践的研究
- 自己調整学習を促進する動機づけと学習方略の観点からの検討 -

本研究では、中学校の社会科教育実践において起こりうる「どのように勉強したらよいかわからない。」「勉強方法がわからず、やる気がでない。」といったような学習者が学習を進めるうえでの課題を克服し、自律的な学習者をめざすため自己調整学習の知見を適用し、社会科における自己調整学習の促進について学習動機づけと学習方略の観点から検討した。なお、本研究では、先行研究を精査し、自己調整学習を学習者が動機づけ、行動、メタ認知において自分自身の学習過程に能動的に関与していることと定義した。また、社会科に関係する自己調整学習について整理するとともに、中学生を対象として、学習動機づけや学習方略の使用を高める教育実践を行い、その効果について検証した。また、動機づけと学習方略の関係について、適切な学習方略の使用が動機づけの質の向上に寄与することを明らかにするとともに、1人1台端末を活用した教育実践を行い、自律性、有能性、関係性の充足が学習者の動機づけに与える影響について検討した。

第1章では、本研究の方向性を示すことを目的として社会科の教育実践における自己調整学習とその関連領域における研究の実際についての考察を行った。考察を行うにあたり、はじめに自己調整学習の概念を整理した。次に、関連領域として動機づけを内的調整、同一化的調整、取り入れ的調整、外的調整という連続体として捉える自己決定理論と学習効果を高めることを目指して意図的に行う心的操作あるいは活動としての学習方略の概念について検討し、これらの観点からポートフォリオやパフォーマンス課題を活用した社会科の教育実践について検討した。その結果、今後の社会科教育における自己調整学習に関連する研究について、学習内容と自己調整学習を支える動機づけの向上や学習方略の使用の促進を関連づけた研究についての検討の必要性が示唆された。

第2章では、自己調整学習の理論に基づいて、まとめと学習活動の振り返りを記録するポートフォリオを中学校社会科の授業の中に組み込み、その成果を自己決定理論と関連づけて検討することを目的とした研究を行った。初めに、社会科の学習動機づけ尺度を作成し、因子分析を経て標準化された尺度として完成させた。次に歴史的分野において学習者が既有知識と学習内容を関連づけながら記述するポートフォリオを導入し、その効果につ

いて検証した。その結果、内的調整と同一化的調整という自律的な動機づけが向上し、他律的な動機づけである取り入れ的調整が抑制されるという成果が得られた。

第3章では、中学校社会科（歴史的分野）において、自律的な学習に必要な学習方略の使用向上を目指した授業実践を行い、その効果について検証した。初めに、中学生を対象とした質問紙調査を実施し、自律的な学習に必要な学習方略を測定する尺度を開発した。開発した学習方略尺度は、認知的・対話的方略とメタ認知的方略の2つから構成された。因子分析を行った結果、体制化方略と対話方略、モニタリング方略と計画方略が見出された。開発された学習方略尺度について信頼性や妥当性の検討を行った結果、信頼性、妥当性が確認された。次に、学習方略の使用を促進するための社会科学習プログラムを開発し、作成した尺度を用いてその効果を検討した結果、体制化方略、対話方略、モニタリング方略の向上に効果があることが示された。

第4章では、中学生を対象として社会科の学習方略が社会科学習への動機づけに及ぼす影響について検討した。学習動機づけの下位尺度として、内的調整、同一化的調整、取り入れ的調整、外的調整が含まれた。学習方略の下位尺度として、体制化方略、対話方略、モニタリング方略、計画方略が含まれた。動機づけと方略について相関分析を行った結果、全ての学習方略と内的調整、同一化的調整が有意な正の相関を示した。また、重回帰分析を行った結果、体制化方略と対話方略が内的調整と同一化的調整に正の影響を与えていることが明らかとなった。これらの結果から、社会科における自律的な学習動機づけの向上には、体制化方略や対話方略が特に有効であるという示唆が得られた。

第5章では、中学生を対象として、個別最適化された学びと主体的・対話的な深い学びの実現を目的とした1人1台端末の活用と協働的な学習を組み込んだ社会科（公民的分野）の授業実践を行い、その成果を自律性の欲求、有能性の欲求、関係性の欲求及び学習動機づけと関連づけて検討することを目的として行われた。学習動機づけの下位尺度として、内的調整、同一化的調整、取り入れ的調整、外的調整が含まれた。相関分析の結果、内的調整と同一化的調整が3欲求と有意な相関を示した。これらの結果をもとに自律的な動機づけ及び3欲求の向上を目的として、情報端末の活用と協働的な学習を取り入れた授業実践を行った。その結果、内的調整、同一化的調整及び3欲求の向上が見られた。本研究の結果から、端末を活用する協働的な学習を行うにあたって、3欲求を支援することの重要性が示唆された。

本研究の結果、社会科の教育実践において学習内容の関連づけや対話的な活動を行い、学習のまとめや振り返りを行うことによって、自律的な学習動機づけが向上し、他律的な動機づけが低下することが明らかとなった。また、学習の関連づけや対話、振り返り等を促すことが、学習方略の使用や自律的な動機づけを向上させる可能性が示唆された。加えて、情報端末を活用した教育実践においては、学習者の自律性、有能性、関係性の欲求を満たすよう支援することの重要性が示された。

本研究の限界として、他律的な動機づけの状態からより自律的な動機づけの状態へと移行していくような学習支援について検討がなされていないことが挙げられる。今後は、適切な学習方略の使用を促したり、支援したりすることによって学習者の社会科学習への動機づけを高めるための教育方法の立案や検討を積み重ねていく必要がある。